

日銀短観（2008年12月）：企業部門の急速な落ち込みが鮮明に

業況判断D I - - 大企業・製造業は1975年2月調査以来の大幅な落ち込み

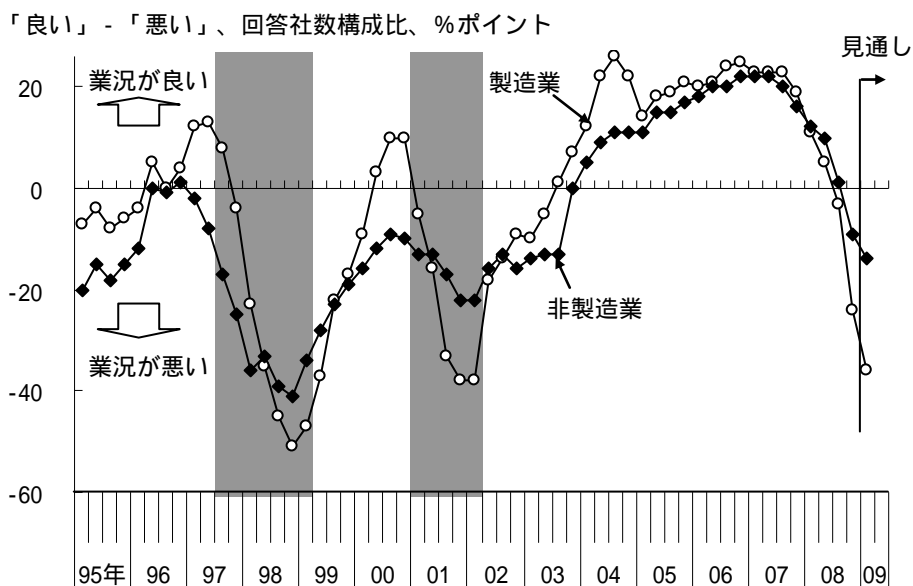
- 日本銀行から発表された『短観（2008年12月調査）』によると、企業の景況感を表す業況判断D I（「良い」マイナス「悪い」）は全規模・全産業ベースで-24と前回9月調査比10ポイント低下した。9月中旬の米証券大手リーマン・ブラザーズの破たんを機に海外の実体経済が急減速し、この影響などにより企業の景況感が急速に悪化していることが示された。業種別には、製造業が前回9月調査比-14ポイントの-25、非製造業が同-7ポイントの-23となった。海外経済の低迷に伴う輸出の減少を反映して製造業の落ち込みが大きくなった。
- 注目の大企業・製造業の業況判断D Iは前回9月調査比21ポイント低下の-24となった。21ポイントの低下は1975年2月調査（-35から-56に21ポイント低下）以来の急落となる。業種別には、輸出減少の影響などにより自動車（前回9月調査比-46ポイント）や電気機械（同-28ポイント）、一般機械（同-24ポイント）など加工業種で大きくD Iが悪化したほか、素材業種でも非鉄金属（同-40ポイント）や石油・石炭製品（同-30ポイント）などが悪化した。
- 一方、大企業・非製造業の業況判断D Iは前回調査比10ポイント低下の-9となった。家計の節約志向の高まりなどを受けて飲食店・宿泊（同-19ポイント）や対個人サービス（同-17ポイント）、小売（同-13ポイント）が低下したほか、住宅市場の低迷を受けて不動産（同-12ポイント）や建設（同-3%ポイント）などのD Iが悪化した。
- 中小企業については、製造業の業況判断D Iが-29と前回調査比12ポイントの低下、非製造業も-29と同5ポイントの低下となった。
- なお、2009年3月までの先行きに関しても、全規模・全産業ベースで-38となり、今回12月調査比14ポイントの低下と、さらに低下幅が拡大する見込みである。業種別にみると、海外経済の低迷を反映して製造業でより厳しい見方（19ポイント低下）となっており、非製造業でも10ポイント低下と今回調査から低下幅が拡大する見込みである。

業況判断D I

（「良い」 - 「悪い」、%ポイント）

| | | 2008年9月調査 | | 今回：2008年12月調査 | | | |
|-------|------|-----------|-----|---------------|-----|-----|-----|
| | | 最近 | 先行き | 最近 | 変化幅 | 先行き | 変化幅 |
| 大企業 | 製造業 | -3 | -4 | -24 | -21 | -36 | -12 |
| | 非製造業 | 1 | -1 | -9 | -10 | -14 | -5 |
| | 全産業 | 0 | -2 | -16 | -16 | -25 | -9 |
| 中小企業 | 製造業 | -17 | -25 | -29 | -12 | -48 | -19 |
| | 非製造業 | -24 | -31 | -29 | -5 | -42 | -13 |
| | 全産業 | -21 | -29 | -28 | -7 | -44 | -16 |
| 全規模合計 | 製造業 | -11 | -16 | -25 | -14 | -44 | -19 |
| | 非製造業 | -16 | -22 | -23 | -7 | -33 | -10 |
| | 全産業 | -14 | -19 | -24 | -10 | -38 | -14 |

大企業の業況判断D I



(注) 網掛けは景気後退局面

価格判断D I - - 原油価格などの下落により交易条件は改善

- 大企業・製造業の販売価格判断D I（「上昇」マイナス「下落」）は前回9月調査比15ポイント低下の-4となり、2007年3月調査以来の「下落」超に転じた。一方、仕入価格判断D Iは原油価格などの下落を受けて、前回9月調査比35ポイント低下の+20と「上昇」超幅が大幅に縮小した。販売価格判断D Iが低下したものの、これを仕入価格判断D Iの低下が大幅に上回ったため、交易条件（販売価格判断D I - 仕入価格判断D I）は-24と前回9月調査から20ポイント改善した。コスト面からの収益下押し圧力は弱まっているといえよう。
- 中小企業・製造業でも販売価格が前回9月調査比13ポイント低下の-5となり「下落」超に転じる一方、仕入価格が+35と同32ポイント低下したことから、交易条件（同）は-40と前回9月調査から19ポイント改善した。

価格判断D I

（「上昇」 - 「下落」、%ポイント）

| 大企業 | | 2008年9月調査 | | 今回：2008年12月調査 | | | |
|--------|--------|-----------|-----|---------------|-----|-----|-----|
| | | 最近 | 先行き | 最近 | 変化幅 | 先行き | 変化幅 |
| 販売価格判断 | 製造業 | 11 | 8 | -4 | -15 | -18 | -14 |
| | うち素材業種 | 36 | 26 | 6 | -30 | -15 | -21 |
| | 加工業種 | -1 | -1 | -8 | -7 | -19 | -11 |
| 仕入価格判断 | 製造業 | 55 | 48 | 20 | -35 | -1 | -21 |
| | うち素材業種 | 57 | 46 | 11 | -46 | -10 | -21 |
| | 加工業種 | 55 | 48 | 25 | -30 | 2 | -23 |
| 中小企業 | | 2008年9月調査 | | 今回：2008年12月調査 | | | |
| | | 最近 | 先行き | 最近 | 変化幅 | 先行き | 変化幅 |
| 販売価格判断 | 製造業 | 8 | 6 | -5 | -13 | -22 | -17 |
| | うち素材業種 | 13 | 15 | 2 | -11 | -19 | -21 |
| | 加工業種 | 4 | 1 | -8 | -12 | -24 | -16 |
| 仕入価格判断 | 製造業 | 67 | 62 | 35 | -32 | 13 | -22 |
| | うち素材業種 | 62 | 61 | 33 | -29 | 10 | -23 |
| | 加工業種 | 70 | 63 | 36 | -34 | 15 | -21 |

需給判断D I - - 内外需とも供給超過が鮮明

- 国内の需給判断D I（「需要超過」マイナス「供給超過」）をみると、大企業・製造業で-34と前回9月調査比16ポイント低下、大企業・非製造業でも-30と同8ポイント低下した。一方、海外については、大企業・製造業で前回9月調査から22ポイント低下の-28となり、2002年3月調査（-32）以来の水準まで低下した。

製商品・サービス需給判断D I （「需要超過」 - 「供給超過」、%ポイント）

| 大企業 | | 2008年9月調査 | | 今回：2008年12月調査 | | | |
|-----|--------|-----------|-----|---------------|-----|-----|-----|
| | | 最近 | 先行き | 最近 | 変化幅 | 先行き | 変化幅 |
| 国内 | 製造業 | -18 | -19 | -34 | -16 | -39 | -5 |
| | うち素材業種 | -17 | -16 | -34 | -17 | -39 | -5 |
| | 加工業種 | -19 | -20 | -33 | -14 | -39 | -6 |
| | 非製造業 | -22 | -22 | -30 | -8 | -32 | -2 |
| 海外 | 製造業 | -6 | -6 | -28 | -22 | -34 | -6 |
| | うち素材業種 | -4 | -5 | -26 | -22 | -32 | -6 |
| | 加工業種 | -6 | -8 | -29 | -23 | -35 | -6 |

売上・収益計画 - - 2008年度下期の利益計画が大幅下方修正

- 2008年度の売上高(計画)は全規模・全産業ベースで前年度比+1.5%と、前回9月調査(同+3.0%)から下方修正された。業種別にみると、製造業が前回調査の同+3.9%から同+0.6%に、非製造業が前回調査の同+2.5%から同+1.9%にいずれも下方修正された。非製造業に比べて製造業でより厳しい見方となっている。
- 2008年度の経常利益(計画)は、全規模・全産業ベースで前年度比-19.1%と前回調査(同-8.1%)から大きく下方修正された。これを半期ベースでみると、上期実績は同-16.2%と2007年度下期(同-6.8%)から減益幅が拡大した。一方、下期計画は同-22.1%と上期からさらに利益が落ち込む見込みとなっている。前回9月調査では2008年度下期の経常利益(計画)は同+0.6%と小幅な増益が見込まれていたが、足下の急速な景気悪化を受けて企業は先行きの利益計画を大きく下方修正している。
- なお、2008年度下期の事業計画の前提となっている想定為替レート(大企業・製造業)は1ドル=101.04円となった。ただし、足下の為替レートは一時1ドル=90円を上回る円高となるなど、想定以上の円高水準で推移している。このため先行き輸出企業を中心に一段と業績が下方修正される可能性が高まっているといえよう。

経常利益

(前年度比、%)

| | | 2007年度 | | 2008年度 | | 上期 | | 下期 | |
|-------|------|--------|-----|--------|-------|-------|------|-------|-------|
| | | | 修正率 | (計画) | 修正率 | | 修正率 | (計画) | 修正率 |
| 大企業 | 製造業 | 0.8 | - | -24.2 | -15.4 | -18.3 | 3.1 | -30.9 | -31.8 |
| | 非製造業 | 0.3 | - | -16.7 | -9.1 | -14.8 | 0.6 | -18.8 | -18.4 |
| | 全産業 | 0.6 | - | -20.6 | -12.3 | -16.6 | 1.8 | -25.1 | -25.5 |
| 中小企業 | 製造業 | -12.3 | - | -18.2 | -15.7 | -8.8 | 1.4 | -27.0 | -29.6 |
| | 非製造業 | -1.6 | - | -16.5 | -11.1 | -24.3 | -9.6 | -10.4 | -12.1 |
| | 全産業 | -4.9 | - | -17.0 | -12.4 | -19.5 | -6.0 | -14.9 | -16.9 |
| 全規模合計 | 製造業 | -2.0 | - | -22.4 | -15.0 | -16.7 | 3.1 | -28.8 | -30.6 |
| | 非製造業 | -0.2 | - | -16.2 | -9.5 | -15.8 | -2.2 | -16.7 | -15.7 |
| | 全産業 | -1.0 | - | -19.1 | -12.0 | -16.2 | 0.2 | -22.1 | -22.5 |

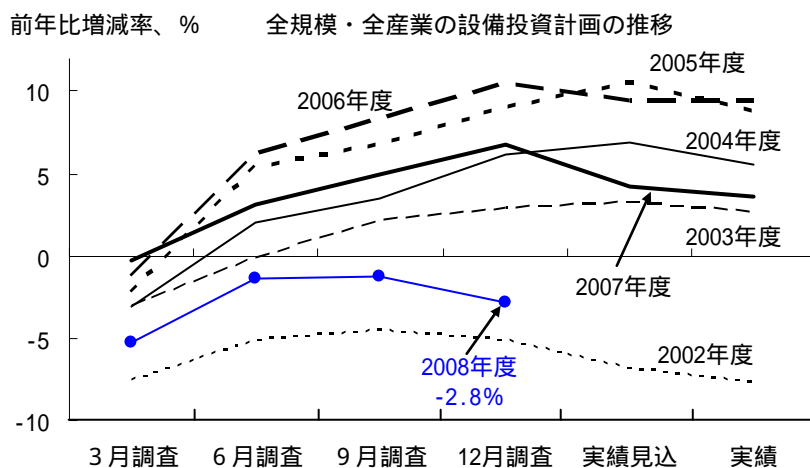
設備投資計画 - - 企業の設備投資意欲は一段と冷え込む

- 2008年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、全規模・全産業ベースで前年度比-2.8%と前回9月調査(同-1.3%)から下方修正された。この時期の調査としては2002年度(同-5.1%)以来の減少計画となっており、企業の設備投資意欲が冷え込んでいる様子がうかがえる。
- 企業規模別にみると、大企業・全産業は前回9月調査(同+1.7%)から下方修正され同-0.2%の減少計画となった。このまま設備投資が減少に転じれば、2002年度実績(同-13.6%)以来の減少となる。一方、中小企業・全産業は前回9月調査(同-12.9%)から上方修正されたものの、同-11.6%と大幅なマイナス計画にとどまった。これは、この時期の調査としては1999年度(同-16.6%)以来の低い伸びであり、中小企業の設備投資意欲も大きく落ち込んでいる。

設備投資額(含む土地投資額)

(前年度比、%)

| | | 2007年度 | | 2008年度 | | 上期 | | 下期 | |
|-------|------|--------|-----|--------|------|-------|------|-------|------|
| | | | 修正率 | (計画) | 修正率 | | 修正率 | (計画) | 修正率 |
| 大企業 | 製造業 | 4.6 | - | 2.4 | -3.1 | 0.1 | -9.1 | 4.4 | 2.7 |
| | 非製造業 | 5.0 | - | -1.7 | -1.0 | 1.0 | -1.9 | -3.8 | -0.2 |
| | 全産業 | 4.9 | - | -0.2 | -1.8 | 0.7 | -4.8 | -0.9 | 0.9 |
| 中小企業 | 製造業 | -3.5 | - | -7.6 | -0.5 | 10.1 | 6.5 | -22.2 | -7.5 |
| | 非製造業 | 5.1 | - | -13.5 | 2.6 | -13.9 | 1.6 | -13.1 | 3.8 |
| | 全産業 | 2.1 | - | -11.6 | 1.5 | -6.9 | 3.2 | -16.4 | -0.4 |
| 全規模合計 | 製造業 | 2.9 | - | 0.0 | -2.9 | 1.8 | -6.6 | -1.6 | 0.7 |
| | 非製造業 | 4.0 | - | -4.3 | -0.7 | -2.3 | -1.4 | -6.0 | -0.1 |
| | 全産業 | 3.6 | - | -2.8 | -1.5 | -0.8 | -3.3 | -4.4 | 0.2 |



(注) ソフトウェア投資額は含まない。土地投資額は含む。

設備判断 - - 製造業を中心に過剰感が強まる

- ・ 生産・営業用設備判断DI（「過剰」マイナス「不足」）は全規模・全産業ベースで+8と前回9月調査比5ポイント上昇した。内訳をみると、製造業が前回9月調査比8ポイント上昇の+14となっており、非製造業（+2）に比べて、生産設備の過剰感が強まっている。
- ・ 先行きについては、製造業が+20、非製造業が+3といずれも「過剰」超幅の拡大が見込まれており、特に製造業で過剰感が一段と強まる見通しである。

生産・営業用設備判断DI （「過剰」 - 「不足」、%ポイント）

| | | 2008年9月調査 | | 今回：2008年12月調査 | | | |
|-------|------|-----------|-----|---------------|-----|-----|-----|
| | | 最近 | 先行き | 最近 | 変化幅 | 先行き | 変化幅 |
| 大企業 | 製造業 | 2 | 2 | 11 | 9 | 17 | 6 |
| | 非製造業 | 0 | -1 | 2 | 2 | 2 | 0 |
| | 全産業 | 1 | 1 | 7 | 6 | 10 | 3 |
| 中小企業 | 製造業 | 9 | 8 | 17 | 8 | 22 | 5 |
| | 非製造業 | 3 | 2 | 3 | 0 | 4 | 1 |
| | 全産業 | 5 | 4 | 9 | 4 | 11 | 2 |
| 全規模合計 | 製造業 | 6 | 4 | 14 | 8 | 20 | 6 |
| | 非製造業 | 2 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 |
| | 全産業 | 3 | 3 | 8 | 5 | 10 | 2 |

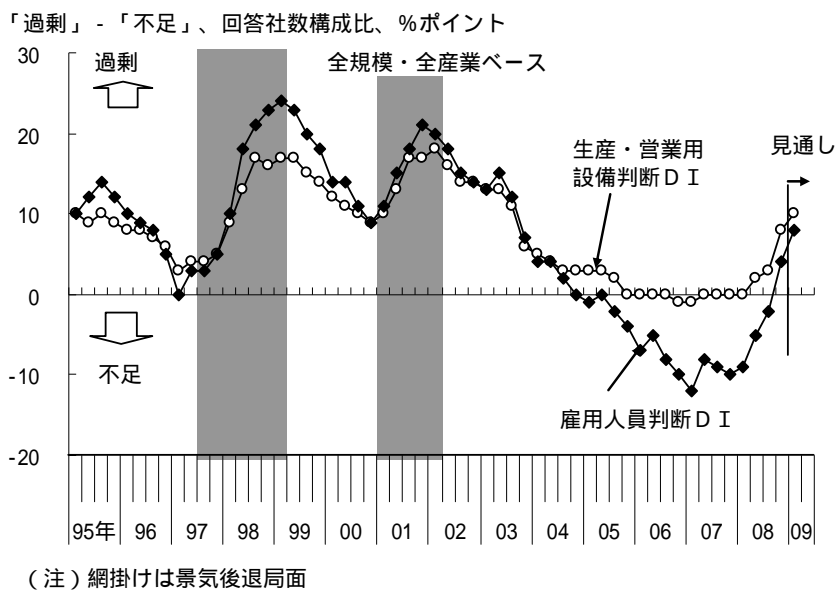
雇用人員判断 - - 2004年9月調査以来の「過剰」超に転じる

- ・ 雇用人員判断DI（「過剰」マイナス「不足」）は全規模・全産業ベースで+4と2004年9月調査以来の「過剰」超に転じた。業種別には、非製造業は-3と依然として「不足」超が続く一方、製造業は+14と前回9月調査の+3から「過剰」超幅が大きく拡大した。
- ・ 先行きについては、全規模・全産業ベースで+8と12月比4ポイントの上昇が見込まれている。製造業で+22を見込んでおり、非製造業（-1）に比べてさらに過剰感が強まる見込みである。
- ・ なお、こうした人員の過剰感を反映して、2008年度の新卒採用計画は前回6月調査（同+4.1%）から下方修正され前年度比+0.8%となった。また2009年度計画については、同-3.7%と2003年度（同-6.2%）以来の減少に転じる見通しとなっている。

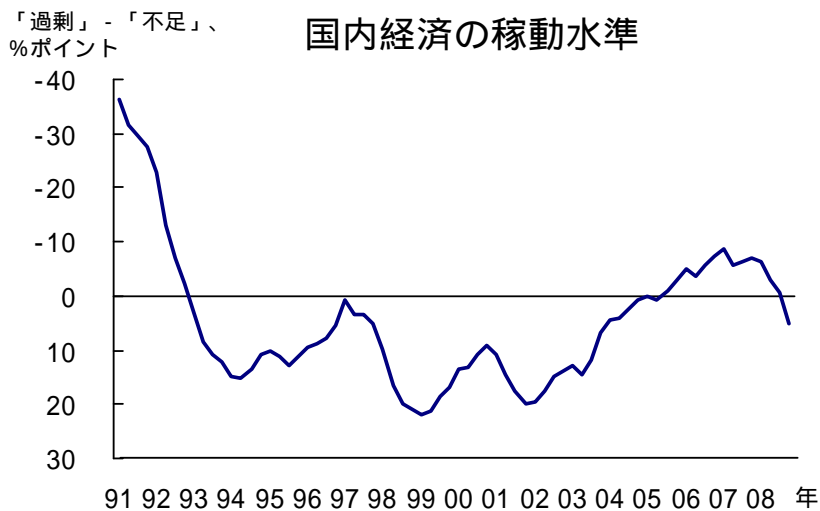
雇用人員判断DI （「過剰」 - 「不足」、%ポイント）

| | | 2008年9月調査 | | 今回：2008年12月調査 | | | |
|-------|------|-----------|-----|---------------|-----|-----|-----|
| | | 最近 | 先行き | 最近 | 変化幅 | 先行き | 変化幅 |
| 大企業 | 製造業 | -2 | 0 | 8 | 10 | 15 | 7 |
| | 非製造業 | -10 | -13 | -7 | 3 | -7 | 0 |
| | 全産業 | -6 | -7 | 1 | 7 | 3 | 2 |
| 中小企業 | 製造業 | 6 | 6 | 16 | 10 | 26 | 10 |
| | 非製造業 | -4 | -5 | -2 | 2 | 2 | 4 |
| | 全産業 | 0 | -1 | 5 | 5 | 11 | 6 |
| 全規模合計 | 製造業 | 3 | 2 | 14 | 11 | 22 | 8 |
| | 非製造業 | -6 | -7 | -3 | 3 | -1 | 2 |
| | 全産業 | -2 | -3 | 4 | 6 | 8 | 4 |

設備判断D Iと雇用人員判断D Iの推移



- ・ なお、この結果、需給ギャップの動きを表す国内経済の稼働水準（生産・営業用設備判断D Iと雇用人員判断D Iを資本・労働分配率で加重平均したもの）は2005年6月調査以来の「過剰」超（需給ギャップの供給超過）に転じた。



(注) 生産・営業用設備判断D Iと雇用人員判断D Iを資本・労働分配率で加重平均したもの。浜銀総研で試算。

以上

担当：調査部 小泉 司
 TEL 045 - 225 - 2375
 E-mail: t-koizumi@yokohama-ri.co.jp